

 建宮で結ぶ人の輪 心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

産土



彦島八幡宮社報
第42号

平成二十四年の清々しき新年を寿ぎ、謹んでお慶びを申し上げます。年頭の言葉に「神喜人喜地喜」としたためました。七百通あまりの年賀状、表の住所と御芳名については文明の利器である「からくり印刷機」、パソコンの「筆ぐるめ」というソフトを大いに活用させて頂きました。しかし、裏面は、水茎(みずくき)の跡が、麗しくはありませんが、墨書させて頂きました。全部で十五種類、自筆したものなかの一つです。

「社会」という語源をご存じでしょうか。実は、年に一回、村の鎮守の神様の社(やしろ)に集まり、その村の重要な取り決めを話し合った、つまり、「社」で「会う」事だそうなんです。これからも、平成元年の春弥生、三月に、権禰宜(ごんねぎ)を仰せつかった初心、未熟ゆえのひたむきさを忘れずに、真心込めてご奉仕申し上げたいと思ひまして、したためたわけですね。神様を喜ばす心でご奉仕申し上げ、参拝者を始め地域の皆様方が笑み榮えて、さらには、この彦島が運命共同体としての地域社会になるよう努力したいという決意の表明であります。そして、「社会」の語源に近づけるよう、まずは、鳥居の内である「神事」を第一に、さらに、鳥居の外に社会貢献である「他事(たじ)」も、懸命に尽力したいと思ひます。さて、今年の干支(えと)を占ってみましょう。平成二十四年は、壬辰(みづのえたつ)の年であります。本年は、水の支配する年回りではありませんが、海・河・洪水の水です。力強い水の働きですね。壬は、「じん」と読み、妊(じん、はらむの意味)を語源とし、新しいものははらまれるという意味です。草木の種子の内部に新しいものがはらまれる状態です。辰は、「しん」と読み、「ふるう」とのう」という意味で、草木の形が整って、活力が旺盛(おうせい)になった状態です。動物では、竜(りゅう)がでていますが、竜は、実在しない動物ではありますが、水の化身(けしん)であると考えられています。水の支配する年回りに、竜のエト、まさに奇しき偶然ですね。

明治維新が、王政復古という原点回帰のもとに完成し、さらには、国民の総力をあげて戦後が復興を遂げました。「向こう三軒両隣り」という地域社会の絆が、今よりはるかに強かった、その時代の崇高な精神文化を取り戻さなければならないと思ひます。新渡戸稲造(にとへいなそう)氏は著書「修養」の中に、「平凡なる日々の務めを尽くすに必要な心掛け」を説いています。「貧乏しても心の中には満足し」、さらに、「逆境に陥つてもその中に幸福を感じ、感謝の念をもって世を渡る」という二つの心掛けを説いています。それは、お陰様という謙虚な気持ちと有難いと感謝する心ではないでしょうか。水というのは、船をうかべて目的の港に穏やかに運ぶことも出来ませんが、風を呼び雲を走らせて、波をおこし船をひっくり返す事も出来ますし、水がなければ船は進みません。船であるときには、穏やかな毎日があるのは、やはり神様のおかげ、たくさんの方々の支えがあればこそ、「有り難い」と心から感謝する事が大切です。感謝の念をもって世を渡るのです。また水であるときには、大事な人や家族や地域社会や日本の国がひっくり返らないように、お互いに「お陰様で」という謙虚な気持ちで助け合い支えあわなければならないと思ひます。心の中で謙虚に満足し、生活することです。

この感謝とお陰様の謙虚な心、「船の心」と「水の心」が、再び生まれ整って、それが大きな力となって、乾いた田を潤(うるお)し、美田(びでん)となる滔々(とうとう)とした、力強い水の流れになつてほしいものです。

中国の龍門という滝を、鯉が昇りきると龍になるといふ伝説があります。出世するきっかけの事を「登龍門(とうりゅうもん)」というのは、この故事がもたっています。日本では、ご承知のとおり、「鯉のぼり」として、男子の出世を願う端午(たんご)の節句となっています。

実は、昨年(う)は、「卯(う)」の年でしたよね。昨年と今年(う)は、「卯辰(うたつ)」の年となります。この力強い水の流れて、龍となる「昇龍」の年、大出世の年、「辰(うだつ)」の上がらない年ではなく、「卯辰(うだつ)」の上がる年になり、この正念場からの回復を心から願うものです。



神喜人喜地喜

宮司 柴田 宜夫

社務日誌抄(下半期)

平成二十三年七月〜十二月

▼文月(七月)

- 九日 兼務社 六連島八幡宮七社祭
- 十日 末社 福浦金刀比羅宮月次祭
- 十五日 末社 竹の子島天満宮例祭
- 十六日 全国氏子青年協議会 第四十九回定期大会・総会(於、京都国際会館)
- 二十四日 兼務社 田の首八幡宮夏越祭
- 夏越祭奉納グラウンドゴルフ大会



- 二十五日 兼務社 六連島八幡宮夏越祭並びに戸別祓い
- 敬神婦人会境内清掃
- 茅ノ輪奉製

- 二十九日 本宮夏越祭前夜祭
- 三十日 本宮夏越祭御神幸祭



- 三十一日 末社 海士郷恵美須神社夏越祭

▼葉月(八月)

- 七日 まほろば学級
- 十一日〜十六日 神道家中元祭齋行

▼長月(九月)

- 一日 下関唐戸魚市場(株)参拝
- 十日 撰社 若宮神社例祭
- 奉納平家踊り
- 末社 福浦金刀比羅宮月次祭



- 十二日 福岡県神社庁八幡支部正式参拝



- 二十一日 下関市倫理法人会朝粥会参拝(経営者モーニングセミナー)
- 下関青年神職会正式参拝



- 二十三日 秋分祭秋季祖霊祭
- 末社 貴布禰神社例祭

▼神無月(十月)

- 二日 秋季例大祭奉納グラウンドゴルフ大会
- 四日 兼務社 六連島八幡宮例祭前夜祭並びに湯立神事



- 五日 兼務社 六連島八幡宮例祭本殿祭御神幸祭

- 八日 兼務社 田の首八幡宮例祭前夜祭

- 九日 兼務社 田の首八幡宮例祭本殿祭御神幸祭

- 十五日 敬神婦人会境内清掃

- 十六日 本宮秋季例大祭前夜祭

- 本宮秋季例大祭本殿祭御神幸祭

- とこわか奉納会 物産奉納奉告式

- 無形民俗文化財指定「サイ上り神事」齋行

- 奉納剣道大会
- リバー・ス彦島歴史ウォーク開催
- 神嘗奉祝祭
- 末社 舞子島八幡宮例祭

- 三十日 観月祭

- 日本酒を楽しむ会正式参拝(利酒講演会・利き酒会)

- ▼霜月(十一月)
- 三日 明治祭

- 彦島老町
- 長崎興幹氏
- 懸崖菊奉納
- 献菊祭

- 敬神婦人会研修旅行

- 五日 熊本県
- 小熊野神社
- 正式参拝



- 十日 末社 福浦金刀比羅宮月次祭
- 十五日 七五三祭
- 十六日 下関ルミエール会正式参拝



- 二十五日 兼務社 六連島八幡宮新嘗祭

- ▼師走(十二月)
- 三日 祈漁祭


- 新嘗祭・神道講演会
- 大注連縄奉製・煤払式
- 神社関係者忘年会

- 氏子青年・維蘇志会神恩感謝祭、忘年会

- 二十三日 天長祭
- 正月臨時巫女奉仕者説明会

- 三十一日 大祓式 除夜祭

まほろば
ろ級
寄稿感想文



去る平成二十三年八月七日(日)、
「まほろば学級」を開催致しました。

情操教育の一環として、下関市教育委員会の後援のもと開催致しましてお蔭様をもちまして第六回目を迎える事が叶いました。改めまして趣旨ご賛同賜りました関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げます。引率として初めて参加の保護者から寄せられました感想文を掲載させていただきます。

彦島地区の小学校を通じて、夏季休暇前にご案内状を配布しております。一日という短い時間ではありますが、氏神さまの境内、鎮守の杜で楽しい時間を過ごしてみませんか。例年、八月第二日曜日に開催しております。

『まほろば学級』感謝』

田中 ゆうこ

「お宮で一日過ごせるんだって〜！楽しそうよ。行ってみる？」という具合に、反強制的に息子を誘い、参加させました。

息子は、小学校一年生。まほろば学級の紙を学校から持ち帰りました。そこには、「…自然の森を有する静かな環境、『まほろば』にて、暑い夏のひとコマの思い出作

りに…」という言葉が書かれてありました。以前から「宮司エクスプレス」の隠れファンである私は、「まほろば」という古語にうっとりしてしまいます。なんと素敵な響きの言葉でしよう。それだけで、参加させて悪いはずがない！という衝動にかられました。ただ、参加対象が小学校四〜六年生だったのと、幼稚園年中の娘と一歳の娘がいることが気にかかり、申し込みには少々戸惑いました。が、保護者同伴なら四年生未満も参加してよいという言葉と、特にこの日に用事が入らなかつたことに後押しされ、申し込みが踏み切りしました。それでもまだ、もし定員に空きがあつたら入れさせていたかどうか…もし私たちの後で四〜六年生の申し込みがあつたら、そちらを優先させるということ…縁があれば参加させていたかどうか…くらしい思いでした。

直接、八幡宮に申し込みに行く、なんともやさしく快く受け付けてくださって、すんなり申し込みが終了してしまいました。

そして当日。まずは、お参りの仕方からお清めの水の使い方を教わることができてよかったです。八幡様にお参りに来ては、親である私もなんとなく使ったことがなく、なんとなくしか子どもにも教えてやれなかつたからです。

次の境内散策も必ずあつてほしいプログラムですね。ただ、多人数のため、列の後ろにいた私たちには説明が少し聞こえなかつたり見えなかつたりしたのが、ちょっと残念ではありましたが。

記念写真を撮る際に、昼食のカレー作りの方も一緒に入れてくださったところがとてもよかったです。後の宮司さんのお話の中でも度々出てきましたが、陰で働いてくださっている方々に気づくこと、感謝することなどを至る所で指導していただき、とてもよかったです。この写真の白い割烹着

のおばちゃんを見る度、おいしいカレーライスが思い出されることでしょうね。

次の童謡の時間は、うちの子のような低年齢の子どもには楽しかったのですが、小学校四〜六年生には少々きつかったかもしれませぬ。レクレーションをしていないままだったので、まだ誰とも打ち解けていない状況でありましたし、大人になりかけている子どもには童謡が幼稚であると感じますしね。童謡を使ったレクレーションだと楽しめるかもしれませぬ。でも、うちの子に限って言えば、童謡もさることながら、お宮の歌が気に入ったようで、あれから毎日、一日一回歌っています。メロディーはかなり我流になっていますが。欲を言えば、歌詞の意味もざつと説明していただければ、より心に残るかもしれませぬ。

お昼のカレーライス、ごちそうさまでした。翌日、息子が書いた絵日記には、まずカレーライスが描かれました。「いただきます」「ごちそうさま」の儀式も勉強になりました。食後の自由時間には、鎮守の森を思い切り走り回り、子どもたちは楽しんでました。

午後からは、子どもたちにとって、楽しいづくめの時間だったようです。うちの子どもなんて「あんどんって何？」の世界ですから、たいへん貴重な体験をさせていたいただきました。ただ、道具類が不足気味だったので、おうちからある程度持参してもらってもいいかなと感じました。自分たちが作ったあんどんでの行列は、また素敵でした。暗い夜の道を、あんどんの灯りだけで行列をなし、幻想的でした。あんどんは家でも作れますが、あんどん行列はこんな機会を作っていたただかないとできないことです。とても素敵な思い出になりました。

ちは、もともと紙芝居が大好き。その上、いろいろな紙芝居を用意したり、飽きさせないようにプログラムを組んだりして下さっていました。彦島の民話が入っていたところもよかったです。また、おじさんの語りがいいですね。家でも本を読んであげるのには母親が多いので、男の方の語りには新鮮でおもしろいです。そういうえば、紙芝居はおじさんが多いですよ。また、どこかで聞きたいです。彦島にも紙芝居おじさんがいてくれて、彦島の民話を語ってくれる人がいたら、彦つ人に民話が少ないでも継承されていきそうですね。

宮司さんからのお話。これも欠かせないプログラムですよ。大人になると道徳的な話を聞く機会がなくなり、だんだん不徳な人間になっていきそうです。それもあつてか、「宮司エクスプレス」はたいへんおもしろく、勉強になります。子どものまほろば学級に保護者として付き添っているながら、大人もたいへん勉強になりました。

夜のパーベキューに花火、あんどん行列、どれもみなさんに感謝感謝です。また、うちの子どもたちは一年生と幼稚園年中でしたので、常にお兄ちゃんやお姉ちゃんの姿を見ながら活動することができ、それも楽しそうでした。異年齢の子どもと遊ぶのもままならない世の中ですので、このような機会を与えてくださることはありがたいことです。宮司さんをはじめ、維蘇志会のみなさま等々、たくさんのご準備片付け・お世話をしてくださり、ありがとうございました。おかげさまで、彦島八幡宮というすてきな「まほろば」で夏のひとときを有意義に過ごすことができました。ありがとうございました。

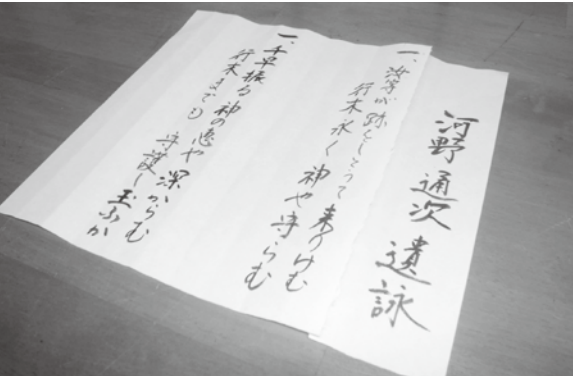


報告

十月十五日～十六日
五拾貳年例大祭

平成二十三年は、天変地異、経済低迷、紛争テロリズムなどが横行し、国内外とも混迷を深めた暗い話題の尽きぬ年でありました。そのよ
うな中でも、お蔭様を以ちまして年に一度の大御祭を斎行することが叶いました事は、ただただ八幡大神様のご加護のもとに感謝を申し上げます。
彦島全島の総鎮守として平治元年より宇佐神宮を勧請、創祀以来八百五拾貳年の歴史がございます。当宮初代祭主である河野通次（こうのみちつぐ）は、保元元年、保元の乱にて崇徳上皇方に組して敗れ、一族郎党敗走して辿り着いた彦島の地にて、武士である事を隠し、半農半漁の生活を営みつつ開拓し現在の彦島の礎を創り上げたいわゆる、彦島開拓の主祖であります。例祭では、河野通次をはじめとする彦島開拓の祖「彦島十二苗祖」を偲び奉納される『サイ上（さいあが）リ（り）神事（しんじ）』がございます。現在では十二苗祖の子孫で形成されるサイ上リ神事神役協議会という保存会により代々継承されています。無形民俗文化財にも指定されており、彦島の原点とも言えるべき大変重要な神事です。
サイ上リ神事の由来について簡易的に述べますと、通次が彦島八幡宮の前身（発祥の地）「光（こう）格（かく）殿（でん）」に楠に刻ませた八幡





例祭厳

平成二十三年一
御創祀八百

尊像を奉納した際、半農半漁民姿から甲冑を着装して弓を取り郎党、家人に柵を持たせ社前に拝し、武運長久と一族繁栄を祈りて後、大いに舞い踊り、我等の守り本尊「サア揚がらせ給う」と大音にて唱えた事を契機に、年に一度だけ甲冑を着装して武士である魂と新転地彦島での再起と繁栄を祈る儀式として今日に伝承されています。

八幡大神様のご加護のもとに歴史を重ねてまいりました例大祭も、現在では変えてはならないもの、世相とともに変わりゆくものが融合しています。本年も様々な奉納行事、奉納試合、ふるまい行事、彦島ならではのおもてなしにて盛大に参詣者をお迎え致すことが出来ました。少子化が深刻な時世ではありますが、多くの若者、子供と一緒に参加奉仕出来る喜びは関係者皆この上もない喜びであります。

最後になりましたが、半農半漁で十二苗祖が開拓して以来商工業も発展し、今では下関市の農・水産・商・工業の中心として欠かす事ができない「彦島」の原点である当宮の護持運営に、皆様方の格別なるご理解ご支援を賜りますようお願いしてお願い申し上げます。当宮の長い歴史に皆様方と一緒に新たなページを刻んでまいりたいと切に願いつつ、ご報告と致します。



全国氏子青年協議会京都大会に参加して

七月十六日(土)朝六時四十五分 我々青年部は、お宮の境内に集合した。

メンバーは宮司をはじめ、田原夫婦、濱島、佐間田、石崎研二と私石崎幸亮の計七名である。七月十六日から二日間開催される全国氏子青年協議会京都大会に参加すべく新下関駅へと出発した。

新下関駅で青木夫婦と合流し計九名は車中の人となる。新山口駅で、のぞみに乗り換え十時四十一分京都駅着、小型マイクロバスを頼み伏見稲荷に参拝、そして昼食後平安神宮にお参りし、午後二時に会場である京都国際会議場へ到着した。三時から総会。そして四時からは式典が厳かに行われ、次期開

維蘇志会会長 石崎 幸亮

催地宮城県を決定し、東日本大震災の義援活動を積極的に行う事や、五十年記念大会は第六十二回式年遷宮の年にあたり三重県で行う等の重要な議題が協議された。

午後六時十五分からは隣の京都国際会館(グランドプリンスホテル京都)に移動し、大懇親会が行われた。終了後三々五々解散し我々は宿泊のホテル本能寺へ引き上げた。

翌十七日はホテルで朝食後、エクスカージョンの祇園祭「山鉦巡行」を見学に出発、カンカン照りの中を二十分位歩いて指定の場所へ移動しました。暑くて、待ち長くて、とても大変でしたが、我々のほとんどが初めて観る山



鉦に一応興奮しました。昼食の弁当を食べたら、二時半の新幹線に乗る為、慌ただしく京都駅へ、お土産をそれぞれ買って、来た時の逆の行程で新下関駅へ、五時四十七分に到着、解散して帰宅の途につきました。

最後に帰りの車中は大宴会であった事と、大会は全国のお宮から沢山の氏子青年部の人達が参加していた事等、驚く事が多かった事を付け加えて筆を置きます。

八幡様の知恵袋 その二十四

シリーズ 伊勢の神宮式年遷宮について

日本人の心のふるさと、我国の総氏神様である伊勢の神宮(三重県伊勢市)では平成二十五年、第六十二回式年遷宮が斎行されます。二十年に一度斎行されます我国における最大最重要の行事であり、社殿・装束・神宝等を新しくする祭祀行事をシリーズで紹介しております。平成十七年から各祭祀行事が進行中で、平成二十五年には正遷宮(御神体の渡御)が予定されています。

今回は立柱祭後、平成二十四年内に執行されます御形祭(ごぎょうさい)、上棟祭(じょうとうさい)、檐付祭(のきつけさい)、葺祭(いらかさい)です。

御形祭

「御形」とは正殿(しょうでん)神宮の中心的建物)東西南北の妻の束柱にある装飾の一種で、これを穿つ祭儀で非公開にて執行されます。

上棟祭

正殿の棟木を上げる祭儀です。正殿の正確な位置を測量する為「丈量儀(じょうりょうのぎ)」に引き続き、棟木から伸ばされた綱を引いて棟上の所作をします。小工(しょうこう)建物の修理・造営を司る技術者)の「千歳棟(せんざいとう)」、「万歳棟(まんざいとう)」、「曳曳億棟(えいえいおくとう)」との掛け声に併せて棟木の打ち固めが執行されます。

檐付祭

新殿(新しい正殿)の屋根に、葺を葺き始める祭儀です。

葺祭

新殿の屋根の葺き納めの祭儀です。屋根に金物等を打ち込みます。

神社新報社発行平成二十四年版神宮大麻

広報誌『むすひ』より



平家ゆかりの彦島も舞台に！

NHK大河ドラマ『平清盛』放映開始

本年一月八日(日)よりNHK大河ドラマで『平清盛』が放映される事はご周知の通りだと思えます。平家の栄枯盛衰を描いた大河ドラマですが、この彦島とも縁がございます。

引島(ひきしま)という表記で歴史書である「古事記」「日本書紀」に最初に出て以来、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」より現在の表記になった彦島ですが、最初に価値を見出したのは、当宮初代祭主である河野通次をはじめとする平家と伝えられます。

平安時代末期 平清盛の時代、厳島神社造営にあたって宮島と彦島が最終候補地に残りましたが僅かに七里七浦七曲がりの条件に対して長さが足りずに結果的に宮島が選ばれたという逸話もあります。なかなか地元の人にも知られていないはず。

平家は彦島を戦略的価値の高い島として重視しており、源平壇ノ浦の合戦の際はここに本陣を置き、清盛の四男 平知盛が根緒城(ねおじょう)を現在の彦島杉田町に築いたとされています。ただ、あくまでも、壇の浦の合戦では戦略的に彦島に本陣を構えたのではなく、屋島の戦い後に、一足先に源範頼の軍勢が九州に進軍、西国の反平氏勢力も盛んになった影響もあり、九州へは渡れず彦島に本陣を置く選択肢しかなかったのが実情でした。結果は史実の通りであります。平家最後の砦であったことには間違いありません。

彦島には多くの平家ゆかりの地があります。いくつか御紹介させていただきますと、彦島本村町の西楽寺に祀られている「西楽寺木造阿弥陀如来座像」は平重盛の持仏と伝えられ、彦島杉田町には「清盛塚」とよばれる知盛が父の霊を慰める為に建立したと伝えられる塚が存在し、はたまた、彦島老町には平家の女官たちが小瀬戸に身を投じたと伝えられる「身投げ岩」が現存致します。こうしてみても、この彦島と平家の縁の深さが窺い知れます。大河ドラマをきっかけに、あらためて地元彦島の歴史にふれられてみてはいかがでしょうか。

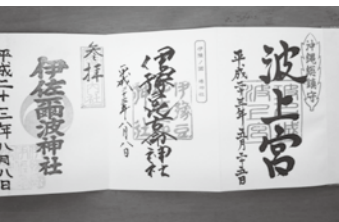
御朱印帳をご存知ですか

近年、参拝者の方に御朱印(こしゅいん)をいただきたい方が大変多くなりました。

御朱印とは、参拝者向けに押印される印章、及びその印影の事をいい、一般的には、朱印を押し集印(しゅうしゅういん)すること)するため両側に固い表紙がついた和紙の屏風折形式を御朱印帳と呼んでいます。

写真のように、単に印を押すだけでなく、墨書で社名や参拝日などが書かれ、その墨書も含めて「朱印」と呼ばれています。起源には諸説ありますが、元々は社寺に写経を納めた際の受付印であった事が有力とされています。そのため納経印と呼ばれることもあります。現在では「参拝」した証として御朱印をいただく方が大半です。気軽に頂くことができますが、やはり神霊を宿すと考える観点からも、神棚に祀るなどして大切に保管されるものであります。これは、仏教の場合も同じことで、四国八十八ヶ所巡拝のように、納経帳の完成を目指して諸寺を巡り、成就することが目的とした巡礼信仰にも類似します。

未曾有の震災後、「絆」「つながり」が一つのキーワードになっていることはご周知の事と思います。皆様方も、御神縁をいただくため「参拝した証」「神様とのつながり」として集印をはじめられてはいかがでしょうか。御朱印を知らない方、これから始めてみようという方、すでに巡っておられる方まで、幅広く御朱印の魅力を伝えることができると、掲載させていただきます。



当宮の御朱印です

お食事・仕出し(御弁当)は
お任せ下さい

彦島八幡宮会館

瑞鳳殿の御案内

お友達やご家族との会食、披露宴、新年会、忘年会、歓送迎会、各種懇親会、年祭・法要等全てに対応しております。仕出し等の各種弁当もご用意できます。ご予算献立等詳細はご連絡下さい。完全予約制です。予めご了承下さい。

〈予約センター連絡先〉

☎0831-341073
〔午前10時30分〜〕

※社務所にも受付けておりますので
お気軽にご相談下さい。

- ◆洋ホール2〜10名様まで対応
- ◆和室十二畳(※六畳二部屋)
- ◆和室二十畳(※十畳二部屋)
- 〔和室会席の場合〓定員三十五名〕



祭事暦 (平成二十四年上半年期)

睦月 (一月)

一日 歳旦祭

三日 元始祭

十一日 六連島八幡宮歳旦祭

十五日 成人祭

どんど焼き

正月飾は当日午後三時以降は受付致しかねます。十六日以降ご持参されてもお受けできませんので予めご了承下さい。



如月 (二月)

三日 初午祭

三日 節分祭追儺式

□神事 / 午後五時三〇分

□開運福引大会

□豆まき / ●第一回 午後五時〇〇分

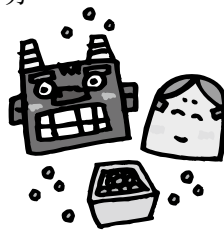
●第二回 午後六時〇〇分

●第三回 午後七時〇〇分

※三回目の豆まきは、年男女(辰年廻り年)・厄年・年祝いに該当するご参拝の皆様方にも本殿にて厄除祈願祭齋行後、豆まきをご奉仕していただけます。

〔初穂料五千円〕

〔注意事項〕どんど焼きは一月十五日(日)に執行致しますので、節分祭当日は執行致しませんので予めご理解ご了承下さい。



十一日 紀元祭建国奉祝祭

我国の初代天皇である神武天皇が橿原宮で即位された古えを偲び、建国創業の御神徳を景仰し、皇室国家の弥栄を祈念申し上げます。

十七日 祈年祭

「としごいのまつり」本年の五穀豊穡と皇室・国家の弥栄をご祈念申し上げます。

弥生 (三月)

上旬 維蘇志会冬禊練成会参加

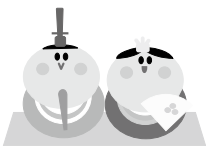
当宮氏子青年会「維蘇志会」会員が下関氏子青年連合会並びに下関青年神職会合同の冬禊練成会に参加致します。

禊場は長府宮崎町御鎮座の豊功神社下海岸です。

中旬 南風泊恵比須神社例祭

二十日 春季祖霊祭

家の宗旨が神道の方の合同の先祖慰霊祭。「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」という、春分の日を迎えるにあたり、自然万物に感謝の祈りを捧げる祭儀を齋行致します。



卯月 (四月)

一日 勸学祭

この春めでたく入学される新一年生の皆様の学業成就・交通安全・無病息災を祈願する新入学奉告祭を執り行います。

八日 竹の子島金刀比羅宮例祭

九日 六連島荒神祭

十四日 舟島神社例祭

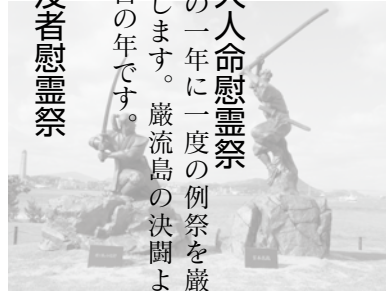
佐々木小次郎大人命慰霊祭

関門海峡守護神舟島神社の一年に一度の例祭を厳流島(＝舟島)にて斎行致します。巖流島の決闘より今年は四〇〇年という節目の年です。

二十二日 彦島地区戦没者慰霊祭

二十九日 昭和祭

激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、我国の将来に思いを馳せ、昭和天皇陛下のご聖徳をお讃え申し上げますとともに、ご皇室の弥栄と国家の繁栄を祈念致します。



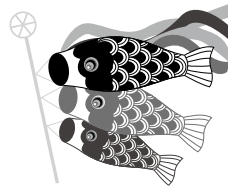
皐月 (五月)

上旬 塩竈神社例祭

彦島塩浜町には、江戸時代後期までに塩田があり塩の製造が行われていました。その塩田の守護神として塩竈神社がまつられた経緯があります。

二十日 福浦金刀比羅宮百八十三年例祭

御神幸祭最大の見せ場である”海中練り歩き“が全国的にも有名です。



水無月 (六月)

十日 海士郷恵美須神社例祭

※神占神事において、彦島八幡宮夏越祭海上渡御の御座船(神輿をお載せする船)が選定されます。

中旬 貴布禰稻荷神社例祭(老町)

三十日 大祓式



神前結婚式のご案内

神前にて、共に生きることを誓う鎮守の杜で美しく雅やかな結婚式を挙げてみませんか。

披露宴も隣接の神社会館「端鳳殿」にて挙行できます。



月次祭

毎月1日、15日

※御神饌米を皆様方におわかちいたします。

宮司講話会

毎月1日

※神社神道をはじめ時局問題、日本の伝統文化等おりました話を宮司自ら講話致します。どなた様でもお気軽にご参加いただけます。

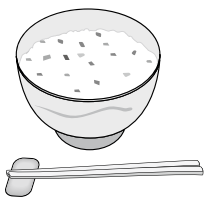
〈縁日〉

朝粥会

毎月21日 午前6時半

※誕生月の方に玉串拝礼をしていただきます。

四季折々のお粥をご賞味ください。



皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参列ください。

平成24年 厄年・年祝表

〔年祝〕

上寿祝	大正2年生(100歳)	数え年100歳のお祝い。
白寿祝	大正3年生(99歳)	百から上の一を取ると白になり、数で云えば99である。
卒寿祝	大正12年生(90歳)	卒は略字で卒と書き九十と読む。
米寿祝	大正14年生(88歳)	米は字をわけると八十八となる。
傘寿祝	昭和8年生(80歳)	傘は略字で傘と書き八十と読む。
喜寿祝	昭和11年生(77歳)	喜は草書で喜と書き七十七と読む。
古稀祝	昭和18年生(70歳)	「人生七十古来稀なり」の漢詩にもとづく。
還暦祝	昭和27年生(61歳)	干支が丁度一巡し、誕生の年と同じになるので本卦返りともいう。

〔厄年〕

性別	本厄年齢	前厄	本厄	後厄
男	25歳	昭和64・平成元年生(24歳)	昭和63年生(25歳)	昭和62年生(26歳)
	42歳	昭和47年生(41歳)	昭和46年生(42歳)	昭和45年生(43歳)
	61歳	昭和28年生(60歳)	昭和27年生(61歳)	昭和26年生(62歳)
女	19歳	平成7年生(18歳)	平成6年生(19歳)	平成5年生(20歳)
	33歳	昭和56年生(32歳)	昭和55年生(33歳)	昭和54年生(34歳)
	37歳	昭和52年生(36歳)	昭和51年生(37歳)	昭和50年生(38歳)

〔八方塞がり〕

六白金星 (男・女)	大正2年、大正11年
	昭和6年、昭和15年、昭和24年、昭和33年、昭和42年、昭和51年、昭和60年
	平成6年、平成15年、平成24年

皆様一人一人の生年月日により九つの星“九星”に区分され星回りが存在します。中央を基点に、北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の方角をめぐり、九年に一度中央に入ります。これが八つの星(方位)に囲まれた状態である**八方塞がり**です。不安定な年とされ、より注意をしなければならぬ年です。
 本年は**六白金星**の方が該当致します。

〔七五三祝〕

髪置 祝	平成22年生の男女(3歳)	髪を伸ばし整え始めること。
袴着 祝	平成20年生の男(5歳)	男の子が初めて袴をはき始める年齢。
帯解 祝	平成18年生の女(7歳)	女の子が今までの紐付着物から帯を締める大人の着物に替える年齢。

祈願祭(お祓い)は数え年で齋行致します。

「数え年」は、生まれた時点を1歳とし、新年を迎える度に1歳加えて行きます。これは、正月に各家を訪れる年神様から1つ年を頂くというありがたい意味があります。

6月	5月	4月	3月	2月	1月
30日(土)先負	6日(水)友引	19日(木)先勝	26日(月)先勝	19日(日)仏滅	26日(木)仏滅
	18日(月)友引	7日(土)先勝	14日(水)大安	7日(火)仏滅	14日(土)友引
		25日(金)友引		19日(日)仏滅	
	13日(日)先勝			7日(火)先勝	
				26日(月)先勝	

彦島八幡宮は別名『子安八幡』とも称され、安産の神様としても崇められております。腹帯をお清めされ、安産祈願祭を齋行されますことをご案内申し上げます。

古来より戌(犬)はお産が軽いとされることから、安産については、戌の日が吉日とされ、帯祝いなどにはこの日を選ぶ風習が伝承されております。懐妊五カ月が過ぎた最初の戌の日を選ぶ地方が全国的に多く見受けられます。

*平成二十四年上半年の戌の日を表記いたしますのでご参照下さい。

安産祈願祭・腹帯清祓のご案内

彦島八幡宮オリジナル祭事暦
 数に限りがございますので、ご希望の方はお早めに、社務所までお問い合わせください。(タテ六十三cm/ヨコ四十六cm)



奉納

▼物産品
 (尙)もずくセンター殿、(尙)マルイチ彦島醸造工場殿、(株)美栄水産殿、三池屋殿、農水フーズ(株)殿、(株)巖流本舗殿、(株)イクク殿、桃歳水産(株)殿、中村屋殿
 平成23年10月16日(日)当宮秋季例大祭に、地元彦島にて活躍されておられます『彦島八幡宮とこわか奉納会』の皆様方に地元物産・水産加工品を種々ご神前に供え賜りました。

▼例大祭ふぐ鍋味噌
 (尙)マルイチ彦島醸造工場殿

▼例大祭ふぐ鍋豆腐
 (株)彦島豆腐殿

▼懸崖菊
 長崎興幹殿

ご奉納心より御礼申し上げます。有難うございました。

表紙写真 平成二十三年秋季例大祭
 発行所 彦島八幡宮社務所
 〒下関市彦島迫町五丁目十二番九号
 TEL 〇八三二二六六〇七〇〇
 FAX 〇八三二二六六一五九一一
 ホームページ http://www.hikoshima-guu.net
 発行者 柴田 宜夫
 編集者 山本 光徳
 平成二十四年一月一日
 印刷 (株)ナカハラプリンテックス